

令和2年10月

普及活動報告



チョコレート商品を自分なりの指標で分類分け



お互いの商品について意見交換

京の農林女子ネットワーク×(株)ローソン連携企画 ～ブロック別研修会「商品開発のためのターゲット戦略」を開催～ (1日)

南丹管内の農林女子を対象に、京の農林女子ネットワークと(株)ローソンのコラボ商品開発に向けた「売れる商品づくり」についてワークショップ形式で研修会を行いました。コラボ商品案である「サラダ」の商品開発を行うために必要な「ターゲット戦略」について実際の商品やCMを題材に、(株)ローソン近畿商品部の担当者からターゲットに合わせたキーワードの考え方等について実習しながら学びました。また、参加者の商品について様々な意見が出されました。

参加者からは「とても役に立つ内容だった」「自分の商品で考えるのは難しい」等の声があり、今後の研修会への期待もさらに高まりました。普及センターは、当面の目標であるコラボ企画商品づくりが実現できるよう支援していきます。

場 所 園部総合庁舎
出席者数 12名

京の農林女子ネットワーク59名(南丹管内メンバー10名)

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年10月

普及活動報告

～南丹地域における京都式農福連携事業～ チャレンジ・アグリ認証(基礎課程)最終 回を開催

(14日)

本年の認証事業ではミニトマトのハウス抑制栽培に取り組み、7月28日(第1回)を皮切りに全6回開催しました。猛暑の中で耕うん、マルチ張りや定植作業を行い、9月下旬からは収穫・袋詰めの実習、最終回は全員で販売実習を行いました。

受講生は、各回実習後に作業の振返りを行い、農作業に対する「自信」を持つようになっていきました。普及センターは、今後も農福連携事業を支援していきます。

場 所 南丹市園部町内林
「しぜん塾やぎ農園」
出席者数 9名

販売実習は、昼休みに園部庁舎ロビーで実施

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年10月

普及活動報告

ブランド出荷最終目合わせ会を開催 ～亀岡特産「賀茂なす」部会～

(亀岡市：15日)



栽培期間終盤の品質について確認



「優」等級出荷物

賀茂なす部会では、6月25日から10月15日にかけて計9回の目合わせ会を行い、高品質で規格の揃った生産物の出荷に努めてきました。最終回の今回、普及センターからは、今年発生した病虫害の傾向や、来年度の苗注文に向けた台木の品種特性等を説明しました。

昨年より数量、販売単価ともに下回り、販売金額は300万円の減額となりましたが、生産者から台木に関する質問があったり、部会員同士で活発な意見交換が行われる等、来年度に向けた栽培意欲が高く感じられました。普及センターは今後も関係機関とともに安定生産に向け支援していきます。

場 所 JA京都亀岡中部支店
出席者数 22名

令和2年産 栽培面積142.0a 生産者20戸
(令和3年度は部会に1戸加入予定)

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年10月

普及活動報告



設置承認通知書を手交

担い手養成実践農場開始式を開催 ～定年帰農で新たに施設野菜栽培に挑戦～ (南丹市：20日)

南丹市八木町神吉地区に実践農場が設置され、開始式が行われました。

普及センター所長から研修者に実践農場設置承認通知書を手交した後、研修者から「初めての施設栽培ですが、地域の農業を盛り上げたい」と力強い決意表明がありました。

出席者からは「まだまだ若いので、地域の担い手として期待している」「ブランド産品みず菜の大きな産地の新たな戦力として頑張ってもらいたい」など激励の言葉が送られました。

普及センターは充実した研修が実施できるよう、継続して支援していきます。

場 所 園部総合庁舎
出席者数 8名

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年10月

普及活動報告

国際水準GAPについて学ぶ ～環境保全型農業直接支払交付金に係る研修会開催～ (亀岡市：22日)



熱心に受講する参加者

「環境保全型農業直接支払交付金」の交付要件として「国際水準GAPの実施」があり、その取組みを進めるための研修会が亀岡市にて開催され、普及センター職員が講師を務めました。

研修会では、農林水産省のテキストに沿ってGAPについて説明した後、理解度テストを利用して具体的な事例で学んでいただきました。

参加者からは、「環境保全型農業直接支払関係以外でも研修した方がよいのでは？」等の感想がありました。参加者は研修で学んだ内容に基づき、GAPの取組みや課題を決めて実践していく予定で、普及センターは今後も伴走支援をしていきます。

場 所 亀岡市役所
出席者数 18名

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年10月

普及活動報告

コロナ禍の中、クラブ員相互の交流の場を設定～京都丹波農業青年クラブが勉強会を開催～

(全域：22日)



間隔を広く取り勉強会を開催



講師の話に熱心に耳を傾ける会員

京都丹波農業青年クラブが、会員の関心が高いテーマとして、「収入保険」と「農薬に関する最新情報」について勉強会を開催しました。

収入保険について、制度に詳しい会員から保険の概要に加え生産者の立場に立った分かりやすい説明がされました。普及センターからは、農薬に関する最新情報として、RACコードに関する情報を今年の病害虫の発生事例などを交えて分かりやすく解説しました。

質問も多く飛び交って関心の高さが窺え、「分かりやすい内容だった」「今後の営農に役に立つ」等の声が聞かれました。普及センターは、今後も青年クラブの活動を支援していきます。

場 所 園部総合庁舎

出席者数 12名

京都丹波農業青年クラブ会員数：27名

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年10月

普及活動報告

日吉町特産「壬生菜」の収穫を体験 ～殿田小学校の5年生が実習～

(南丹市：27日)

南丹市日吉町の殿田小学校5年生が9月15日に自分たちでは種した同町特産の「壬生菜」の収穫・調製・袋詰め of 各作業を体験しました。

最初に、生産農家から収穫と株の調製方法について説明があり、その後、班ごとに収穫を行いました。また、教室内では袋詰めの実習が行われました。

生徒たちは、大きく育った「壬生菜」に目を見張り、目を輝かせながら、「収穫」・「袋詰め」作業を行いました。今後、「壬生菜」についてより深く学ぶ予定であり、普及センターもこの食育活動を引き続き支援していきます。

場 所 日吉町殿田

出席者数 20名

日吉町令和元年度壬生菜部会員21戸、生産量43.7t、栽培面積（ハウス）240a

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年10月

普及活動報告

農家組合長会ジャンボタニシ勉強会で講演 ～亀岡市千歳町～

(亀岡市：27日)



「対策を実施していこう！」という意気込み
が感じられたディスカッション

亀岡市ではジャンボタニシによる水稻被害が拡大しているため、地元の要請を受け、普及センター職員が勉強会で講演しました。

講演では、南米原産のジャンボタニシが定着に至った経過と、被害を回避するための田植え後の浅水管理、石灰窒素や農薬の使い方、越冬期の耕うんや水路の泥上げなどを説明しました。

「田植え後、浅水管理下での除草剤の効果は?」「石灰窒素の使い方は分かったが費用がかかるので助成支援を」「水路の泥上げは地域でできる」などの声が聞かれました。普及センターは引き続きジャンボタニシ対策を支援していきます。

場 所 千歳町自治会館
出席者数 16名

亀岡市内の発生水田面積 288ha (総水田面積1,520haの18.9%)

京都府南丹農業改良普及センター